

なにかを言い訳にせず、
やりたいことを
少しずつ実現したい

Role Model 12

梅澤 彩

熊本創生推進機構准教授

大学教員
→ 大学院（博士課程）
→ 大学院（修士課程）
→ 教育学部

Profile うめざわ・あや 1996年より京都教育大学教育学部にて障害児および障害者の心理・医学・教育について学ぶ。大学卒業後、2000年4月より大阪大学大学院国際公共政策研究科にて家族形成と性的自己決定権、養子と里親、生殖補助医療に関する法的諸問題についての研究を開始。その後、榎山女学園大学現代マネジメント学部専任講師、摂南大学法学部専任講師を経て、2012年4月より大学院法曹養成研究科准教授。2018年4月より現職。

高校教員をしながら 大学院で研究をする日々

高校生の頃は、教職か法律関係の職に就きたいと思っていました。大学卒業時がちょうど就職氷河期にあたり、教員採用も厳しい状況にありましたので、高校の教員（非常勤）をしながら、大学院で法学・政策学を学ぶことを選択したのが研究者になるきっかけになりました。当初は修士課程で修了するつもりでしたが、修士論文を書いているうちに研究が面白くなり、博士課程に進学。博士課程進学後も高校の教員（非常勤）は続けていましたが、博士課程の2年頃に、自らの研究成果を学生や一般社会の方にも知って欲しいという思いが強くなり、研究者を志すようになりました。

大学院時代は、午前中は高校で働き、午後は大学院で勉強するというのが基本的なスタイルでしたが、大学時代と同様、自由気ままな暮らしをしていました。研究職を志したのが遅かったので、あまり熱心な学生とはいえなかったと思います。それでも、研究テーマに関わる当事者や専門家のところ足を運び、現場の声を聴くのは大好きでした。現場の実態を知らなければ、独り

よがりな法の解釈や法政策を提言することになりかねないとの思いがあったからです。大学院時代に築いたご縁は、今も大事なご縁としてつながっています。

現代社会における親子問題の実態と 解決へのアプローチを研究

最近では、非血縁関係にある親子（養子・里親）の問題、離婚後の親子の問題（養育費・面会交流）について研究していますが、長年の研究テーマは、生殖補助医療で生まれた子の法的地位と配偶子（精子・卵子）・胚の提供者および代理懐胎者の法的地位、出自を知る権利に関するものです。日本では、現在のところ生殖補助医療等に関する法律がなく、提供型生殖補助医療によって生まれた子の法的親子関係の成立に紛争が生じたときは、司法の判断を待たざるを得ない状況にあります。また、提供は匿名で行われるため、生殖補助医療によって生まれた子が、自らの血縁上の父・母を知りたいと思っても知ることができません。「子は授かるものから創り出すもの」になりつつある現代にあって、生殖補助医療によって生まれてくる子の法的地位、出自を知る権利はもちろん、それに関わる当事者（配偶子・

胚の提供者、代理懐胎者、依頼者）の権利も保障していく必要があります。このような法制度の在り方について、英米法の国（とくにニュージーランド）の法制度を中心に研究をしています。

研究成果を通して、社会の実態とこれに関する自らの考えを広く訴えていくことができるのが、この仕事の魅力だと思います。研究内容の関係で、医療関係者への研修を行ったり、司法関係者との研究会を開催することが多いのですが、研究成果を実務上の参考にして頂けることもあり、そのような場合にやりがいを感じます。

週末婚と、公私のバランスで 「やりたいことをやる!」

関西に在住している家族とは、できるだけ多くの時間を過ごしたいと思っています。週末婚のようなかたちで毎週末移動するのは経済的・身体的にも負担ではありますが、家族を言い訳に自分のしたいことを制限したくはありません。バランスを維持し続けることは難しいかもしれませんが、なんとかなるものだと思っているし、なんとかしたい、と思っています。

女子学生だけへのメッセージではありませんが、経済的・

精神的な自立を求め続けてください。家族が病に倒れたとき、家族や大切なものを失ったとき、自分で自分を、あるいは自分の大切な誰かを養っていくだけの力と精神的な強さがあれば、恐れることは何もないと思います。家族をはじめとする他者の存在を認め、尊重していくためには、自立的な個である必要があります。

これまで執筆した論文集や教科書、実務書の一例



リフレッシュ
方法は？

博物館・美術館・温泉巡り。
オートマタや浮世絵・美人画を鑑賞するのが好きです。鶴田一郎氏（熊本出身のグラフィックデザイナー・画家）の作品を鑑賞すること、温泉巡りは長年にわたり続けているリフレッシュ方法です。